

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第2号

June 2008

その夢は、きっと世界を変えていく。



第4回交流会（第1回財団卒業式・祝賀会）



第3回交流会 横浜スタジアムにて

Contents

- | | | | |
|------------|---------------------------|-------------|--------------------------------|
| P.2 | 一語一会「仲間」
寄付者名簿 | P.8 | 第4回交流会レポート
(卒業式・祝賀会) |
| P.3 | 平成19年度 下半期活動報告 | P.12 | 竜の子近況報告 |
| P.4 | 第2回交流会レポート
(箱根観光・柔道体験) | P.15 | 編集後記 |
| P.6 | 第3回交流会レポート
(野球観戦・講演会) | P.16 | Topics
(平成20年度竜の子奨学生25名が決定) |

財団法人 **秋元国際奨学財団**



「仲間」

最近、「仲間」という言葉があまり使われなくなりました。学歴主義を背景に、子供の頃から猛勉強し、いい学校、いい会社に入ること漠然とした目標として、親や学校の先生から押し付けられている光景をよく見ます。会社に入ってもすぐに転職してしまい、学校でも会社でも仲間意識がなくなってきています。

これではどうしても、「自分さえよければそれでいい」という個人主義（自分だけの世界）に陥りがちであり、学校や社会でいろんな人達と出会っても、上辺だけの薄っぺらな人間関係しか構築できず、自分と意見が違えば排除するような「心の狭い」人間になってしまいます。でも、いい学校いい会社に入ることだけで、本当に人間の「心の幸せ」というものは手に入れられるのでしょうか。

確かに一生懸命に勉強して、優秀な成績で一流企業に就職することも立派なことですが、人生は学問や経済的なことだけではないはずですよ。

奨学生の皆さんはそれぞれの国から「自分の夢」を実現させるために、はるばる海を越えて日本にきました。学問だけなら母国でもできるかもしれません。わざわざこの「日本」という国に来たのですから、日本という文化や日本人の考え方も十分に吸収してください。

自分の将来を考えるとときには、大きな夢と同時にそれ以上大きな不安も抱えているはずですよ。その夢や不安を仲間と語り合ってみてください。

皆さんには、世界各国から大きな夢をもって慣れない日本でがんばっている「秋元国際奨学財団の大切な留学生仲間」がいます。秋元国際奨学財団の奨学生「竜の子」として、この仲間を大切にしてください。

一番苦しい時代に共にごがんばった仲間というのは、一生の仲間となります。同じ学校の同級生よりも、もっと深く心の底からつながる仲間となることもあります。

今後、日本の大学を卒業され、就職し、それぞれの母国に戻って活躍されるようになって、この日本で共に語り合った秋元国際奨学財団の仲間を大切にしてください。

秋元国際奨学財団の「仲間」が、きっと皆さんの賭けがえの無い「一生の財産」となるはずですよ。



評議員 しおい まさる 塩井 勝

1964年 新潟県に生まれる。
1987年 中央大学商学部会計学科卒業
1988年 太田昭和マネージメントサービス株式会社（現在の新日本アーンストアンドヤング税理士法人）に入社。
現在、同社において、公益法人コンサルティング部 担当パートナー（役員）

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

寄 付 者 名 簿

- 相浦 一成 様 (GMOペイメントゲートウェイ株式会社 代表取締役社長)
- 榊原 暢宏 様 (ジャパンベストレスキューシステム株式会社 代表取締役)
- 岸野 一夫 様 (株式会社未来塾 代表取締役塾長)
- 河本 貞子 様 (株式会社アルデプロ 一般株主)
- 泉 毅 様 (株式会社マッチング・ナビ 代表取締役)
- 未来塾・塾生御一同 様 (株式会社未来塾ゴルフコンペのチャリティー)
- 山下 泰裕 様 (東海大学教授 ロスアンゼルスオリンピック柔道金メダリスト)
- 伊原 昌義 様 (株式会社リンクアンドサービス 代表取締役)
- 豊山 慶輔 様 (株式会社リンクアンドサービス 専務取締役)
- 伊礼竜之助 様 (須田清法律事務所 弁護士)
- 田野倉 淳 様 (株式会社アルデプロ 一般株主)

ご寄付を頂いた皆様へのお礼のことば

ご寄付頂いた皆様、本当にありがとうございました。頂いたご寄付のおかげで以前よりもっと勉強に集中できるようになりました。これから、さまざまな問題・課題に向き合ったとしても、「竜の子奨学生」としての信念と誇りを忘れずに頑張っていきます。

(一橋大学大学院 李 範煥)

平成19年度 下半期活動報告

●10月19~20日

第2回交流会〔国内研修旅行〕開催

第1日目 箱根観光&懇親会（於：ホテル南風荘）

第2日目 柔道体験&山下泰裕様による講演会
（於：東海大学武道館）

●12月 8 日

第3回交流会開催

プロ野球マスターズリーグ観戦（於：横浜スタジアム）

大沢啓二様による講演会（於：横浜中華街 華正楼）

●12月22日

平成20年度竜の子奨学生の応募書類を指定大学25大学へ発送

● 2 月20日

平成20年度竜の子奨学生の応募締め切り

● 3 月 4 日

平成20年度竜の子奨学生 選考委員会を開催

（於：株式会社アルデプロ本社）



● 3 月10日

第3回理事会・第2回評議員会を開催（於：京王プラザホテル）

（1）平成20年度事業計画及び収支予算について

（2）平成20年度基本財産等の運用について

（3）株主権の議決権行使について

● 3 月10日

第4回交流会開催

第1回財団卒業式・祝賀会（於：京王プラザホテル）

第2回交流会レポート

平成19年度で一番楽しかったのが第2回交流会でした。場所は箱根。奨学生の中でも箱根は始めての人が多かったらしく、内心喜ぶ人が大半でした。しかも、今回の交流会は1泊2日の旅程。まだお互いによく知らない奨学生たちには、親しくなれる絶好のチャンスにもなりました。また、柔道体験では山下先生の人生に役立つ講演で感動も受けました。このように、竜の子奨学生の交流会は奨学生達に「**生きることを考えさせる場**」にもなるのです。

平成19年10月19日午前11時、新宿に集まって出発する前に挨拶をかわしました。今回がまだ二回目ということだけに集合場所は静かな雰囲気でした。11時15分、バスに乗って箱根に向かって出発。バス内では隣の人と少しずつ会話をとりはじめ、互いに少し緊張がとけた感じになりました。昼食をバスの中で済ましながらはしること2時間弱で早雲山というところに到着。ここからさらにロープウェイで移動し、やっと最初の目的地、大涌谷に着きました。



恐ろしい(?) 大涌谷を背景に

初の所であるだけに団体写真1カット。後ろの山に火災事故??と思ったら、温泉の名所ならではの珍光景でした。



遊覧船に乗る前に…

がしか～し…濃厚な硫黄の臭いだけは頭痛がするほどで、長くはられません。ここでは黒い温泉卵を忘れないように。いくつか食べると死ぬまで(?)長生きするそうです。

大涌谷から下りて乗った遊覧船。これで芦ノ湖を渡

るそうです。なんてロマンチックな船でしょうか!!

あ～どきどきしますね～

芦ノ湖からホテルに向かう途中、箱根にある江戸時代の関所を訪ねました。箱根関所は徳川幕府が作った53個の関所の中でも4大関所として重要視されたそうで、入る前からその威厳を感じることができました。さすが4大関所です。

関所を出ると、寒いなかの観光で皆だいたい疲れている様子でした。これからはホテルに入りお湯につかりますので皆さん頑張りましょう!温泉に入る写真は全裸を見せるわけにはいけませんので削除。

温泉の後、懇親会で理事長と1カット。隣の男は絶対に理事長のお友達ではございません。間違わないように!!



懇親会で理事長と交流中の奨学生たち

この日、理事長はとてもお忙しいところのご参加だそうです。いつも我々留学生のために配慮してくださる優しい方で、恩人と呼べる方。誠にありがとうございます。

懇親会個人スピーチ大会(?)で優勝したチーム。日本でお笑い芸人になっても遜色のない実力でした。吉本興業に入っちゃえ～!やはり、頭の良い人は何事もうまいですな。ていうか、あのポーズはまさか…伝説の神技と呼ばれる必殺??カ～メ～ハ～メ～波～!!!なんちゃって。今、太極拳を披露してくれるところです。

懇親会が終わってから奨学生たちのみでの2次会をひらきました。場所はホテル内のカラオケ。もう皆さんすっか



優勝チームがスピーチの途中に太極拳を披露

り親しい友達になったようですね。歌も皆うまかったですし、竜の子奨学生は勉強と遊び両方とも優秀な人達です。この次もまた3次会までつづいたそうです。

これで初日のスケジュールは終わりです。夜は皆が寝る時間を惜しんで夜遅くまで話し合いながら楽しんでました。皆さん～明日も早いのでもう寝ましょうよ！

二日目、東海大学での柔道体験において団体写真を撮りました。皆本当の柔道選手のようにです。このような経験はなかなか出来ないの皆さんしっかり学んで、自分の成長に役立てましょう～



柔道体験を記念して山下先生とともに

柔道体験では山下泰裕先生のほか、特別ゲストとして金メダリストの井上康生選手と塚田真希選手が参加してくださいました。山下先生と井上選手は大きくてがっちりした体形の頼もし



当日で指導くださった山下先生と井上選手

い方々で、塚田選手は恥ずかしがる姿がとても可愛い方でした。さらに、この日に山下先生から教わった講演の内容に奨学生の皆が感動してしまいました。やはり、柔道は人に強くて深い精神を与えるものですね。

柔道体験のあと、東海大学柔道部の皆さんと一緒に学生食堂で昼食を食べました。特にこのテーブルの人は竜の子奨学生たちに人気だったイケメン部員でした。女の子にモテるって、なんてうらやましいこと～



東海大学の学生と昼食を食べている竜の子奨学生たち

食事が終わってバスに乗る前に団体で1カット。とても面白かった第二回の交流会もこれで終わりのようです。後は東京に戻ってまた自分の勉強に励むことになるでしょう。今回の交流会では皆さん一人一人が何かを感じ取ったのでは??それを生かしながら夢に向かってしゅっぱ～ツ!!

「新宿に着いてそのまま解散になるのは何かもの寂しく、別れづらくて財団の建物前でしばしの間はずっと話合っていました。また会う日を期待しながら、みんなさようなら……。」



東京に戻る前に、東海大学武道館にて

（担当：平成19年度 竜の子奨学生 慶応義塾大学 金 秉奎）

第3回交流会レポート

冬に入った横浜で第3回交流会が行われました。第2回交流会でだいぶ仲良くなった竜の子たちは第3回交流会ではプロ野球マスターズリーグ観戦し、大沢親分の講演会にも参加しました。冬になって気温は寒かったのですが、竜の子たちの仲はますます熱くなりました。

平成19年12月8日、竜の子奨学生の第3回交流会が開かれました。前回の箱根研修旅行に続いて今回も野外活動つきの交流会で、横浜スタジアムでプロ野球マスターズリーグを観戦しました。マスターズリーグとは、2001年社団法人全国野球振興会が中心となって発足したプロ野球OBによる野球リーグです。発足の中心となっている社団法人全国野球振興会は野球人材活用と球界の活性化のための団体で、当財団の評議員である我々が親分こと大沢啓二様が理事長を勤めています。今回の交流会は全国野球振興会の全面的な協力の下で行われました。

季節は12月に入り多少寒い天気ではありましたが、スタジアムには一世を風靡したプロ野球スターたちを観にきた野球ファンの熱気で包まれていました。特に多くの野球少年たちが観戦に来ていて、試合前に選手たちとの触れ合いを楽しんでいました。我々もグラウンドに降りて、試合直前の選手たちの練習風景やベンチの様子などを間近で見学することができました。野球がまだそれほど普及していないアジア諸国の留学生たちは慣れないスポーツに最初少し戸惑った様子でしたが、選手たちの丁寧な説明を聞いて少しずつ野球というスポーツを理解するようになりました。また、バットやグラブを直接手にして野球を体験することで野球をより身近に感じることができました。当日は大沢評議員がご意見番として出演されている情報番組サンデー



取材を受けているグラウンド見学中の竜の子たちと大沢親分

モーニングの取材も入っており、何人かの竜の子奨学生もインタビューを受けました。

試合は東京ドリームス対名古屋エイティディーズ。名古屋の先発は、「権藤、権藤、雨、権藤」で有名な権藤博で、対する東京の先発は遠藤一彦選手でした。選手の皆さんは現役を引退しているにも関わらず現役時代を思わせるような素晴らしい活躍ぶりでした。選手たちは真剣なプレーだけではなく時々余裕のあるプレーも見せてくれて違う形でもファンを楽しませてくれました。特にギャオス選手は素晴らしいプレーはもちろんのこと面白いコメントやひょうきんな仕草でみんなを楽しませてくれました。ゲームが進んでいく中で野球になれてなくてルールがよくわからな



見慣れない野球ボールに興味津々の竜の子たち



グラウンド見学後ギャオス内藤選手と記念撮影



試合を楽しんでいる竜の子たち

かった学生たちも野球になれている学生や秋元理事長の説明を聞きながらそれなりに野球を楽しむことができました。残念ながら途中風が強くなり気温が低下したため途中でスタジアムを出ることになりましたが、この野球観戦は竜の子奨学生には貴重な経験となりました。後の懇親会で聞いたことによればこの試合は東京ドリームスが5対2で勝ったそうです。

試合が終わってからは横浜中華街にある「華勝楼」で大沢啓二様による講演会が行われました。大沢様といえば日本プロ野球OBクラブ理事長、プロ野球マスターズリーグ委員会議長など野球の普及と野球界の発展のために日ごろ活躍しているとともにテレビ番組にもご意見番として出演されています。特に「カーツ!」、「あっぱれ!」という威勢のいいコメントで人気がある方です。講演の内容は竜の子奨学生にとってためになる実にいいお話でした。講演の



竜の子を代表して大沢親分に講演会へのお礼をする曹 洋さん

中では、野球というスポーツを通じて人を育て、社会を発展させ、ひいては国をよくするという、大沢様の野球に対する熱い情熱や社会貢献への崇高な精神を垣間見ることができました。また、大沢様ご本人の体験やご自分のご息への教育のお話はこれから一人の人間としてまた社会の一

員として成長して行かなければならない竜の子奨学生にとって非常によい内容でした。

講演会終了後は、大沢様を囲んで懇親会が行われ、学生が講演について質問したり、学生が自分の国のスポーツ事情を話したり、大沢様は勿論のこと理事長や他の財団関係者の方々とより関係を深めることができました。また特別ゲストとして、東京ドリームスの河野選手、西崎選手、そしてギャオス内藤選手も参加し、大変盛り上がりました。

今回の交流会では野球観戦と大沢様の講演会が主な内容でしたが、以前にもましてその内容は充実していました。そこで野球というスポーツを通じて日本の文化を知り、また人生における先輩たちからためになるお話を聞き、竜の子たちは一回り大きくなったのではないでしょうか。



試合後疲れているにもかかわらず懇親会に参加してくださったギャオス内藤選手と河野選手

(担当：平成19年度 竜の子奨学生 一橋大学大学院 李 範煥)



第4回交流会レポート

● 第1回財団卒業式 ●

平成19年3月10日、第一期竜の子奨学生である5名の仲間達の卒業式を迎えました。お互いに出会えてわずか8ヶ月しかなかったが、共に歩み、共に感じ、共に笑い、共に泣き、たいへん尊い思い出をいっぱい作りました。しかし、いよいよお別れのときが訪れます。卒業生のためのキャンドルセレモニー、卒業記念盾の授与式、理事長や在籍生代表や卒業生代表のスピーチが行われました。その後、祝賀会も開かれて、みんなで最後に団らんしました。



卒業生をお送りするキャンドルセレモニー

理事長挨拶

本日卒業する皆さんは、母国に帰る人、日本企業に就職する人、今の研究をもっと深めていく人など、いろいろとあるでしょう。私は、皆さんには、これからの社会に対する使命感を持っていただきたいと思います。世の中には一人勝ちということはありません。共存共栄への努力が大切であります。そのためには謙虚な心を持ち、他人に対する協力、社会に対する貢献という視点を持つ必要があります。皆さんの新しい出発を、心より祝福します。



挨拶している秋元理事長

送辞 北海道大学大学院 朴 性昱 (韓国)

皆さんが留学生活と共に竜の子奨学生を卒業することを、お祝いの気持ちの反面、寂しい気持ちもこみ上げてきます。これから世界に羽ばたいていく我々留学生にとってきっと大切な「仲間」になると思います。母国あるいは日本で活躍される卒業生の皆さん、これからも竜の子奨学生での思い出を忘れずに、将来世界で活躍する竜の子奨学生31名との絆が大きな実になるように、大切に守っていきましょう。



送辞を述べている朴 性昱さん

答辞 卒業生代表 一橋大学大学院 劉 彦平 (中国)

私は自分自身を幸運に恵まれている、幸せな人間だと思っています。ご支援は金銭にとどまらず、精神の面でも大きな感動を与えてくれます。私達竜の子奨学生の一生の宝物のような、素敵な思い出になると思います。今、地球上では、飢餓や貧困が原因で、テロ問題などが多発しております。将来、私達も自分の力で可能な限り、貧困地域や貧しい学生たちへ自分の支援の手を捧げてあげていきたいと思っています。



理事長から卒業記念盾を授与される劉 彦平さん

● 祝 賀 会 ●

卒業生のみさんから、スピーチをしていただき、さらに、卒業生のご両親からの手紙をサプライズとして読み上げられ、感動的な画面も。その後、寄付者や来客の方々から祝福や励ましのお言葉をいただき、心に刻んでいます。後半の交流会は円満にすすみ、ハッピーな雰囲気にも包まれた懇親会となりました。

卒業生 亜細亜大学 金 昭希（韓国）

竜の子奨学生の仲間と友達となり、一緒に笑って時には励ましあってすごく心強かったし、嬉しかったです。皆と旅行に行ったり、柔道の体験や野球の観戦をさせていただいたりといった普通はとてもできない経験ができました。今後の予定ですが、就職は決まっていません。面接を受けた会社の結果を待っている状態です。財団を卒業することになりますが、これからももっと財団と交流を深めて行き、竜の子奨学生の仲間を中心に交流の輪を広げていきたいです。理事長がおっしゃった国際友好親善につながるので、そういったOGとしての活動をしていきたいです。（（注）現在はオルビスという化粧品会社に就職しました。）



スピーチをしている金 昭希さん

卒業生 一橋大学大学院 劉 彦平（中国）

秋元国際奨学財団の奨学金のおかげで、無事に卒業できるようになりました。これから社会人になる私にとっては、より良い人生観、世界観、価値観の形成にとっても役立ちました。4月からコピー機など事務機関連の機械を製造・販売する会社——富士ゼロックスという会社に入り、社会人として働き始めます。そこで、私は営業をすることになります。自分の仕事を通して、社会にとって役立つ人材になり、社会貢献したいと思います。将来、日中の文化・経済交流を通じて、日中友好、世界平和に力を捧げ、経済的な余力があれば、中国の西部地域の貧しい農村の学生達に対して、学業の支援をしたいと思います。

卒業生 東京電機大学大学院 韓 平（中国）

一番印象に残ったことは、野球試合の見学により、みんなで力をあわせて頑張ることでやればできるというチームワークの大切さでした。奨学金がもらえたおかげで、京都に旅行に行って、日本の文化をもっと勉強でき、いい思い出になりました。私は、日本でネットワークシステムに関する仕事に就くことを決めました。小さい会社ですが、日本で学んだことを生かすことが、私に日本で学ぶ機会を与えてくださった皆様への最大の恩返しだと思います。



スピーチをしている韓 平さん



スピーチをしている劉 彦平さん



卒業生 東京大学 ゲン ヒュー クワン (ベトナム)

秋元国際奨学財団の第1期の竜の子奨学生としての時間は私にとって本当に有意義な時間であったと今になってつくづく感じております。山下先生からは「他人の気持ちを大事にする」ということを、大沢親分からは「目標に向けて絶対あきらめないで頑張らなければならないこと」ということを、勉強できたからだと思います。私は今月の終わりに母国のベトナムに帰り、仕事を始めます。将来は「建築のスペシャリスト」になりたいです。そして、これからも末長いお付き合いができればと思います。



スピーチをしているゲン ヒュー クワンさん

卒業生 群馬大学大学院 向 瓏 (中国)

秋元理事長からは「三つの豊かさを追求する」という経営理念は幸せな人生に通用するということを学びました。これから私は就職活動を積極的に行い、食品、医薬品業等、人々の健康に役立つような研究をしたいと考えています。このように、いままで学業や、就職活動を安心して行うことができたのも財団の奨学金のお陰です。将来の夢ですが、世界で活躍しながら、日本の文化を世界に伝えたり、中国の文化を日本や世界の人達に伝えられるような人になりました



スピーチをしている向 瓏さん

いです。最後に財団を通じて支えてくださった皆様には、ここで深く感謝いたします。

祝辞 一橋大学大学院 李 範煥 (韓国)

この3月で卒業する竜の子奨学生、また、これから学業を続けていく竜の子奨学生は、これからも、さまざまな問題・課題に向き合ったとしても、「竜の子奨学生」としての信念と誇りを忘れず、お互い敬いあい、支えあい、かがやきあいながら共に歩いて行きます。そして、それぞれの持場で活躍し、奨学金や交流会を通じて、我々が得たものを、後世に還元できるような人間になりたいと思います。



祝辞を述べている李 範煥さん

卒業式にあたって、向瓏さんのご両親から届いたメッセージです。本人には知られていなかったので、感動のサプライズとなりました。

親愛なる瓏ちゃん

この度、「秋元国際奨学財団」の廣田理事様の依頼を受けて、あなたに祝福のメッセージを書くことになった。

まず、「秋元国際奨学財団」の皆様と秋元理事長様、廣田理事様及び財団の関係者に感謝の意を伝えてほしい。この一年間あなたに励みと経済的援助、そして奨学生たちとお互いに交流し合い、勉強し合うチャンスをごいただきました、心より感謝していることを皆様に伝えてほしい。

瓏ちゃん、あなたはもうすぐ学校を卒業し、指導教官と友達とお別れして、新しい職場につくだらう。我々は、あなたが日本への留学を通じて、きっと一人前の科学者になっていると信じている。我々の娘はすばらしい。我々はあなたの未来がきっと明るいことを確信している。あなたはきっと一生懸命働いて、優れた成績で「秋元国際奨学財団」の皆様と指導教官、友達のご恩に報いてあげ、社会の発展に貢献すると我々は信じている。

瓏ちゃん、頑張って！お父さんとお母さんはいつもあなたの後ろ盾になり、あなたを応援し、支援するから。

最後にあなたが健康で、勉学に励み、仕事に成果をあげるように！

お父さん お母さん より

2008.2.11



- ①祝辞 評議員 塩井勝様（新日本アーンストアンドヤング税理士法人 社員）
- ②来賓代表挨拶 評議員 山下泰裕様（東海大学教授、ロスアンゼルスオリンピック 柔道金メダリスト）
- ③寄付者代表挨拶 長洲謙一様（ゴールドマンサックス証券株式会社 株式営業本部長）
- ④乾杯 理事 太田孝昭様（OAG税理士法人代表社員）
- ⑤祝辞 総合格闘家 吉田秀彦様

- ⑥マジックショー 山本ヒデさん
- ⑦ステージショー CHEMISTRY似のダブルネームのおふたり
- ⑧ステージショー はなわさん
- ⑨祝辞 評議員 大沢啓二様（社団法人全国野球振興会 理事長、元プロ野球日本ハム球団監督）
- ⑩⑪締めのご挨拶（博多一本締め）
寄付者 相浦一成様（GMOペイメントゲートウェイ株式会社 代表取締役社長）

竜の子近況報告



王 小凡 (中国)

一橋大学大学院
国際公共政策大学院
公共経済プログラム

「九州大学卒業式」

今年の桜満開の春に九州大学を卒業し、一橋大学の国際公共政策大学院に入学しました。学部入試のときから一橋大学に入りたく、実現できなかった悔いは大学時代にずっと残っていました。やっと大学の卒業を迎え、大学院の受験で一橋大学を再チャレンジしようと思いました。両親に負担をかけないため、勉強とアルバイトを両立させることができましたが、受験料や交通費そしてアルバイトを休んで勉強に集中するための生活費までは回らない状況でした。その時に、この高望みのチャンスを与えてくれたのは秋元国際奨学財団でした。経済面の支援をいただいた同時に財団の方々や竜の子奨学生たちに励まされ、念願の一橋大学に合格し、私の人生に転機を与えました。

これから大学院では経済学をさらに深く勉強し、多国籍企業の発展途上国への投資・貿易についてリサーチしたいと思います。これからも竜の子奨学生第一期生としての誇りを持って、感動や感謝の気持ちを忘れずに確実に頑張っていきます。



郭 甜甜 (中国)

東京海洋大学
海洋科学部
海洋生物資源学科

「ヘルスフード科学海外研修（平成19年度） （NPEX-Nature Product Expo West 2008）」

ヘルスフード科学海外研修というのは、私の大学にある「ヘルスフード科学寄附講座」という研究室がもった学部の集中講義である。主な費用は寄付者が負担するので、毎年定員8名、旅費5万4千円かかる。以前なら、金銭面も時間もここまで余裕を持ったことがなかったが、本当に竜の子奨学金のお陰で、応募する勇気をつけてくれた。面接や試験によって、今回の研修のメンバーに選ばれた。ヘルスフード先進国と言われる米国のヘルスフード市場について、多くのヘルスフード企業が集まる「Natural Products Expo West 2008」の視察や最新情報についての解説の受講、ヘルスフード関連企業及び食品流通事情視察を体験してきた。



蔡 碧月 (台湾)

筑波大学大学院
生命環境科学研究科
生命産業科学専攻

「(財)地球環境戦略研究機関 廃棄物・ 資源プロジェクトインターンシップ」

皆さん、こんにちは。私の近況報告をさせていただきます。2008年1月～4月に、廃棄物に関する各国の状況と最新の政策動向を研究する為、(財)地球環境戦略研究機関(IGES)のインターンシッププログラムに参加して参りました。IGESでは、家電廃棄物、エコタウン、有害化学物質、3Rに関する研究を行い、「台湾の有害化学物質の法体系に関する現況と今後の動向」に関するレポートも書かせて頂きました。また、国際会議の運営、研究白書の作成補助、中国語の翻訳等の実務を通して、研究手法や専門文書の書き方などを学ぶことができました。インターン期間に学んだ事を、今後自身の博士論文の執筆及び将来の研究に活かしたいと思います。



陳 雲芳 (中国)

東京外国語大学
外国語学部
日本課程

「なぜ私は日本の古典文学を選んだのか」

私の専攻は日本の古典文学です。具体的に言うと、現在のところでは源氏物語を読んでおり、源氏物語におけるアレゴリーと中国の古典文学の中に現れるアレゴリーを比較研究しています。

私の専攻を聞くと、びっくりする人が多いです。彼らの印象では、日本の古典文学が非常に難しく、日本人すら読みにくい古典を外国人が研究するのは不思議です。では、なぜ私はこの専攻を選びましたか？二点の原因があります。私は古典が好きであることと私は中国人であることです。日本の古典と中国の古典は深いかかわりがありますが、日本の古典は独自の特徴も持っています。自分の研究によって日本的な特徴を持つ日本の古典を中国に紹介したいと思います。



ウェイ ピョウ (ミャンマー)

早稲田大学大学院
情報生産システム研究科
情報生産システム工学専攻

「技術と発展途上国」

情報技術は、発展途上国に新しいチャンスを与えます。それにより人々は豊かさを手に入れ、これまでの貧困から抜け出すことができます。

IT技術に優れた人材を活用することで、世界の舞台に上がることができると思います。ミャンマーのような発展途上国にとって、日本で行う私の研究は大いに役立ち、効果的なサービスを提供できるであろうと考えています。

IT技術の活用は、広く言うと、情報アクセス、コミュニケーション、経済取引の三領域からなります。たとえば、IT技術により人々は電話のような通常の従来の方法より低価格で通信することが可能になりました。このような低価格の通信手段により遠く離れた人々同士の交流がより活発になりました。

そのためIT技術は発展途上国に多くの利益をもたらすと考えています。



曹 嘉認 (中国)

東北福祉大学
総合福祉学部 社会福祉学科

「福祉を学ぶ」

「福祉」とは「社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福」と定義されています。しかし、これは一般にとらえられている「福祉」のイメージとは、少し違ってかもしれません。なぜなら、私たちがマスコミなどで目にする「福祉」は、大抵高齢者や障害のある人たち、つまり、ある特別な人たちへのサービスや施設に限定した話題であることが多いからだと思います。私は今この大学で、高齢者福祉や児童福祉についても学んでいることはもちろんですが、生涯学習や人間関係といった、あらゆる人々の生き方に関れることについても広く勉強しています。私は、この大学で「福祉」とは、すべての人がどうやったら幸福になることができるかを本気で考えるための学問であることが、少しずつわかってきました。



チェッタナシャイ カニター (タイ)

早稲田大学大学院
国際情報通信研究科

「研究紹介：次世代ネットワークのSIP (Session Initiation Protocol)」

今学期はタイにおけるVoice Over IP を研究する予定です。タイでは日本のように、インターネットを普及してきた。また、NGN (次世代ネットワーク) を含めて、企業情報システムは大きく変革し、さまざまなビジネスモデルの展開します。タイでは大家族が多く、とても仲が良いです。また、隣人や友達とのつながりが強く、助け合う社会です。ITが発達し、コミュニケーションがよくなれば、家族や友達の絆がより深くなり、とても良い文化が育っていくだろう。日本の技術がタイにもたれられて、新たな文化が日本へ戻ってくるようになれば、世界的な絆が深くなり、平和で豊かな未来に貢献できると思います。



ジョシ サワン (ネパール)

東京芸術大学大学院
音楽研究科
音楽専攻

「奏楽堂トーク&コンサート (アジアの出会い)」

平成20年3月12日に旧音楽学校奏楽堂でアジアの出会いというテーマで音楽の発表会が行われました。そこでさまざまな国の留学生の中で僕はネパール代表としていつもの演奏するインド・ネパールのの古典楽器シタールで2曲を発表しました。今回の発表会の特徴はそれぞれの国の伝統音楽を紹介すると同時にその伝統音楽を様々な西洋楽器と合奏で演奏することでした。また留学生たちは自分の国といえばどんなイメージがあるのかについて説明するのも一つ注目ことでした。僕は今回祖国の特徴をまず紹介し、1曲目はネパールのタマン族の民謡の独奏をしました。2曲目はネパールの伝統音楽を西洋の様々な楽器と一緒に合奏演奏をしました。



夏力哈尔 (中国)

電気通信大学大学院
情報システム学研究科
情報システム運用学専攻

「事故を引き起こしたヒューマンエラーに関する研究」

ヒューマンファクタとは、人間や機械等で構成されるシステムが安全かつ効率よく目的を達成するために、考慮しなければならない人間側の要因である。事故の多くはヒューマンファクタによるエラーで起こると言われている。中国の石油天然ガスまた核電力などエネルギー関係系統運用業務におけるヒューマンエラーが原因で起こった事故に対しては、その都度原因追及を行い、同種事故の再発防止に努めてきた。しかしながら、ヒューマンエラーによる事故は忘れた頃に発生しており、これらの発生を防止することが必要である。そこで、ヒューマンエラーによる事故の未然防止を行うことを目的として、系統運用業務におけるヒューマンファクタの分析手法を新たに確立することとした。



ドアン ティエン ドウック (ベトナム)

東京工業大学大学院
イノベーションマネジメント研究科
技術経営専攻

「BtoCにおける購買行動に関する研究」

多くの研究者が、ECサイトの成功要因を分析し、多くの実践者が成功のためのハウツー本を出している。しかし、既存研究で指摘されている成功要因を満たしても失敗したり、満たしていないのに成功したりという状況が起こっている。この研究は、ECのBtoCにおける購買行動の差異と、その購買行動に影響を与える要因についての調査・分析を行い、顧客を購買行動で分ける必要性を提示する。この結果より、EC顧客の購買行動には、段階があり、初期段階の取引が継続購買のパターンに重要な影響を及ぼすことが明らかになった。EC購買行動の説明要素の発見は、この分野における研究や実際のビジネスへの応用に期待される。このような内容を今年の6月に沖縄で行われるテレワーク学会に出て、発表する予定です。

(担当:平成19年度 竜の子奨学生 一橋大学大学院 王 小凡・東京工業大学大学院 ドアン ティエン ドウック・早稲田大学大学院 チェッタナチャイ カニター)

編 集 後 記

一橋大学大学院 李 範煥 委員長

亀の子奨学生になってから一年が経ちました。あっという間に時間は流れてしまったのですが、振り返ってみると毎回の交流会で多くを学び、また亀の子奨学生という貴重な仲間を得ることができました。編集委員は初めての経験だったので最初はかなり心配していましたが、廣田さんと編集委員の皆さんや記事を提供してくれた奨学生たちのおかげで難なく作業を終えることができました。奨学生による編集は今回が初めてでしたのでまだいたらないところもあると思いますが、これから亀の子たちみんなの力で少しずつよりいいものにして行けたらと思います。

東京海洋大学 郭 甜甜 副委員長

奨学生が本会報を編集するのは第一回目、そして私を含め多くの編集者に対して「雑誌」を編集するのも初体験です。ワクワクな気持ちと共に重大な責任感も感じていました。編集にあたって、意見が噛み合わないのはしょっちゅうなことで、時には激論にもなったりしましたね～仲間の意見を納得し、自分の意見が受け取られたときの喜び、そして本気でぶつかり合ったからこそ、味わいが尽きません。また、編集会議でプロの方からのご指導をいただいた後、「なるほど!」「あ、こういうことか!」など、以前より雑誌編集に関して理解を深め、とても貴重な経験でした。

日本大学 武 霄翌

会報第2号の編集にあたり、多数の優秀な奨学生の中から編集委員として選ばれ、非常に嬉しく思います。今回の編集にあたり、第4回交流会 卒業式・祝賀会コーナーの編集を担当させていただき、卒業式・祝賀会の際のさまざまな感動的な場面を振りかえりながら編集する内に、私自身もとてもあたたかい気持ちになりました。内容の方では、まだ皆様にご満足いただけない部分もあると思いますが、次号以降の編集を担当する奨学生たちにとって、何らかのアイデア発想のきっかけになれば幸いです。

一橋大学大学院 王 小凡

私たちは「亀の子奨学生」会報第2号の編集メンバーとして、より良い物を仕上げたく、みんなで丸となって頑張りました。編集にあたって、私たちは過去半年の活動での色々な出来事を書き始めました。しかし、書き始めると、書いている私たちが笑ったり、しみじみしたり、本当に亀の子奨学生第一期生として採用されて、改めて幸せだなあと痛感させられました。私は主に「亀の子近況報告」を担当しました。みんなの多彩な大学生活や学会での活躍を報告することができたかと思えます。みなさん、ご協力ありがとうございました!

慶応義塾大学 金 秉奎

第2号の編集委員の皆さんお疲れ様でした。何回もの編集会議をへてようやく会報を完成させることができました。私は第2回交流会と報告という、他のパートに比べて割と簡単なところを担当させていただきましたが、「編集委員」という活動が、今回が生涯初めてでしたので大変未熟な完成度であろうと思います。ごらんになる皆さん、どうか心広いご了承お願いいたします。また、最初に編集会議を行って以来、委員同士の気まずかった雰囲気も回を重ねるたびに溶けてしまい、亀の子奨学生同士の新たな交流場と変わってきました。次回からの編集委員募集でも時間を惜みずに参加していただきたいです。

早稲田大学大学院 チェッタナシャイ カニター

初めての編集なので不安もありましたが、実際やってみると想像していたものとは違って、とても楽しかったです。亀の子の近況報告では、亀の子奨学生とメールでやり取りしたためか、思ったように編集できず、誤解もありました。せっかく送ってくれた原稿と写真を上手く使いこなせず、何度もやり直しました。でも、皆の優しい協力のおかげでやり遂げることができました。ありがとうございました。さて、1年間、亀の子奨学生達がやってきたことや、いつまでも心に残る良い思い出が、この第2号の亀の子ニュースレターで読者に伝えられれば、本当に嬉しい限りです!

東京工業大学大学院 ドアン ティエン ドゥック

亀の子奨学生として2年目になりましたがいつも財団の方々から支援を頂いていただけで、自分は何も手伝えることができませんでした。今回は財団の活動の一つである会報の作成にちょっとだけでも貢献できるとうれしいなと思い、編集委員会に参加しました。メンバーは5カ国から8人が集まり、国はそれぞれ違っても、皆が一丸となり、会報の作成に取り組んで、無事に終了しました。内容はまだ至らないところがあるかと思いますが皆さんが読んで、喜んでいただければと思います。今後ともよりたくさんの奨学生が財団の活動にサポートできる活動を計画して欲しいです。

早稲田大学大学院 ウエイ ピョウ

私は編集メンバーですが、東京から距離があるため、ミーティングには参加できませんでした。しかし、ほかのメンバーのみんなが一生懸命に活動してくれたので、非常に誇りに思っています。秋元奨学財団に参加してからすでに一年が経とうとしていますが、交流会や旅行など、たくさんの素晴らしい経験をすることができました。自分のアイデアを載せ、新しいものを創り出す喜びを感じました。編集に参加できて本当にうれしかったです。メンバーのみなさん本当にありがとうございました。

平成20年度（第2期）竜の子奨学生 25名が決定

平成20年3月4日に、第2回選考委員会が開催され、全国25大学（本年度より、新たに東海大学、明治大学および立教大学が指定大学となりました）の50名の応募者の中から、中国・韓国・台湾・タイ・モンゴル・バングラデシュのアジア6カ国の25名の留学生が、第2期竜の子奨学生として選出されました。

この結果、当財団に在籍する留学生は、昨年度までの奨学生とあわせると、アジア11カ国の50名となりました。

平成20年度 財団法人秋元国際奨学財団「竜の子奨学生」の大学別採用学生数一覧

大学名	採用学生数	採用学生数の内訳										
		課程別			国・地域別						男女別	
		学部	修士	博士	中国	韓国	台湾	タイ	モンゴル	バングラデシュ	男	女
北海道大学	1		1					1			1	
東北大学	1	1			1						1	
東北福祉大学	1	1				1						1
群馬大学	1			1	1							1
筑波大学	1			1	1							1
青山学院大学	1	1				1					1	
亜細亜大学	1		1		1						1	
慶應義塾大学	1	1			1							1
電気通信大学	1			1	1							1
東海大学	1			1	1							1
東京大学	1	1			1						1	
東京外国語大学	1			1			1					1
東京海洋大学	1			1	1							1
東京芸術大学	1			1	1						1	
東京工業大学	1			1		1					1	
東京電機大学	1		1		1							1
日本大学	1		1		1						1	
一橋大学	1			1	1							1
明治大学	1		1						1			1
立教大学	1		1					1				1
早稲田大学	1		1					1				1
京都大学	1		1		1						1	
立命館大学	1		1		1						1	
九州大学	1			1	1						1	
立命館アジア太平洋大学	1	1								1	1	
合計	25	6	9	10	16	3	3	1	1	1	12	13

(注) 博士前期は「修士」欄に、博士後期および一貫制博士は「博士」欄に含む

